

インドネシア投資環境視察団 報 告 書



(出所:citivu.com)

期 間:2014 年 10 月 27 日(月)～同 31 日(金)

訪問国:インドネシア(首都ジャカルタ及び周辺地区)

2014 年 11 月

横浜商工会議所 国際部

～目 次～

はじめに	2 頁
1. 本視察団の趣旨・目的	3 頁
2. 視察内容のポイント	3 頁
3. 本視察団の派遣期間	3 頁
4. 本視察団の企画・実施主体	3 頁
5. 旅程概要	4 頁
6. 旅程及び視察内容の詳細	5 頁
■ 1 日目／10 月 27 日(月)・・・離日、結団式	5 頁
■ 2 日目／10 月 28 日(火)・・・ブリーフィング、スナヤン視察、夕食交流会	6 頁
■ 3 日目／10 月 29 日(水)・・・主要工業団地及び日系進出企業の視察	10 頁
■ 4 日目／10 月 30 日(木)・・・ジャカルタ市街視察、解団式	13 頁
■ 5 日目／10 月 31 日(金)・・・成田到着	14 頁
7. 主な視察先の紹介	15 頁
□スナヤン・スクウェア・プロジェクト	15 頁
□グリーンランド インターナショナル工業団地	16 頁
□カラワン工業団地	18 頁
□PT. Indonesia Steel Tube Works (ISTW)	20 頁
□PT. Fumakilla Indonesia	20 頁
□PT. Oshimo Indonesia	21 頁
□P.T. Ogawa Indonesia	21 頁
□国家独立記念塔(通称:モナス塔)	22 頁
□国立中央博物館	22 頁
□ブロック M エリア	22 頁
8. 参考資料(インドネシアの指標)	23 頁

はじめに

わが国経済の現状は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の長期化から個人消費を中心に低調に推移しております。こうした状況に加えて、昨今の経済のグローバル化の進展や国内市場が縮小していく中で、わが国企業、とりわけ日本経済を根底から支えている中小企業が成長・発展していくためには、事業の海外展開は避けて通れない課題となっております。

このため、横浜商工会議所では 2011 年より、横浜市経済局、日本貿易振興機構(ジェトロ)横浜貿易情報センター及び公益財団法人横浜企業経営支援財団と共に 4 機関による連携を図りながら、横浜市内の中小企業の方々の海外展開を支援すべく、様々な取り組みを行っておりますが、このたびの視察団の派遣もこうした取り組みの一環でございます。

当所にとりまして、このたびの視察団の派遣は、昨年度のベトナム・カンボジア(南部経済回廊)投資環境視察団に続く第 2 弾でありましたが、日本貿易振興機構(ジェトロ)横浜貿易情報センターのご協力の下に、有意義な視察となり、一定の成果を収めることができたのではないかと自負いたしている次第でございます。

今回の視察先となりましたインドネシアでございますが、上述の通り、経済成長が著しい ASEAN 地域において最大の国土と世界第 4 位となる 2 億 5 千万人もの人口を擁する国であり、生産拠点としてのみならず、販路拡大の拠点としても、近年高い注目を集めているところでございます。

私どもの視察団は、インドネシアに実際に赴いて、同国の政府機関等から経済情勢、投資環境及び金融情勢についてブリーフィングを受けた他、日系企業による大型の複合都市開発や日系企業に高い人気のある工業団地の視察、実際に進出を果たしている日系企業との意見・情報交換を通じて、同国の投資先としての魅力と今後の発展に向けた勢いを十分に感じ取ることが出来ました。

視察団に参加された団員のお一人お一人が今回の視察成果をお持ち帰りになり、所属されている企業が今後のアジアへの事業展開を図るうえでお役だていただければ、団長としてこの上ない喜びでございます。

最後になりましたが、今回の視察に快くご協力いただきました関係機関の方々、視察・訪問先の皆様に対しまして厚くお礼申し上げ、ご挨拶いたします。

インドネシア投資環境視察団

団 長 鈴 木 一 男(横浜商工会議所議員/㈱ダイイチ代表取締役社長)

1. 本視察団の趣旨・目的

インドネシアは ASEAN 最大の国土と世界第 4 位の人口大国として、今後の市場拡大、豊富な労働力の供給という点で大きな優位性を有しており、ASEAN 諸国の中でも特に今後の成長が最も期待されている国の一つである。本インドネシア投資環境視察団は、魅力溢れる同国を見聞し、関係諸機関や工業団地の視察、日系進出企業の皆様方との情報・意見交換を通して、参加企業の今後のアジア展開を図るうえでの一助とすることを目的とする。

2. 視察内容のポイント

本視察団による視察内容のポイントとしては、概ね次の 7 点が挙げられる。

- (1) JETRO ジャカルタ事務所による社会経済情勢のブリーフィング
- (2) インドネシア投資調整庁(BKPM)による投資環境のブリーフィング
- (3) インドネシア国際銀行(BII: Bank of International Indonesia)による金融情勢のブリーフィング
- (4) 進出拠点の受け皿となる 2 か所の大規模工業団地の視察並びに進出企業への訪問
- (5) 行政関係機関、工業団地関係者及び日系進出企業との交流会の開催
- (6) 大規模複合施設「スナヤン・スクウェア・プロジェクト」の視察
- (7) 現地での日常生活を体感する商業施設や史跡等の視察

3. 本視察団の派遣期間

2014 年 10 月 27 日(月)から同 31 日(金)までの 3 泊 5 日(機中 1 泊)

4. 本視察団の企画・実施主体

視察主催：横浜商工会議所、日本貿易振興機構(ジェトロ)横浜貿易情報センター
旅行主催：近畿日本ツーリスト(株)横浜支店

5. 旅程概要

	月日	訪問地	内容	食事
1	10月27日(月)	成田 ジャカルタ	成田空港第1ターミナル北ウイングに集合 ガルーダインドネシア航空 GA-885 便にて空路ジャカルタへ ジャカルタ到着後、ホテルにチェックイン ホテル内レストランにて夕食(結団式) ＜ジャカルタ泊＞	機 夕
2	10月28日(火)	ジャカルタ	ホテルにて朝食 現地の経済関係3機関によるブリーフィング ・JETRO ジャカルタ事務所による社会経済環境ブリーフィング ・インドネシア投資調整庁による投資環境ブリーフィング ・インドネシア国際銀行による金融情勢ブリーフィング 市内レストランにて昼食 大型複合施設「スナヤン・スクウェア・プロジェクト」を視察 ホテル内レストランにて視察先関係者を招いた夕食交流会 ＜ジャカルタ泊＞	朝 昼 夕
3	10月29日(水)	ジャカルタ ブカシ県 カラワン県	ホテルにて朝食 GIIC グリーンランド工業団地及び日系進出企業を視察 同工業団地内のレストランにて昼食 KIIC カラワン工業団地及び日系進出企業を視察 同工業団地内のレストランにて夕食 ＜ジャカルタ泊＞	朝 昼 夕
4	10月30日(木)	ジャカルタ	ホテルにて朝食 専用車にてジャカルタ市街へ(市内視察) ・独立記念塔 ・国立中央博物館、他 市内レストランにて昼食(解団式) 専用車にてブロック M 地区へ(自由視察) 専用車にてホテルへ戻り、チェックアウト 空港近くのレストランにて夕食 専用車にて空港へ ガルーダインドネシア航空 GA-884 便にて空路成田へ ＜機内泊＞	朝 昼 夕
5	10月31日(金)	成田	成田到着(解散)	

6. 旅程及び視察内容

■ 1日目／10月27日(月)・・・離日、結団式

視察団一行は旅程初日、成田空港からガルーダインドネシア航空にて一路、インドネシアの首都ジャカルタに向かった。現地ガイドと合流し、専用車にてスルタンホテル・ジャカルタに向かった。インドネシアでは、公共交通機関の整備が遅れているため、通勤ではほぼ自動車かバイクを使用する。そのため、朝6時から10時と夕方17時から20時までは右写真のような渋滞がみられる。



【ジャカルタ市内の交通渋滞】

ホテルでチェックインの後、ホテル内バンケットルームに本視察団一同が会して結団式を執り行った。

冒頭、本視察団の鈴木一男団長(横浜商工会議所議員／㈱ダイイチ代表取締役社長)による開会挨拶があった後、各団員による自己紹介と本視察にかける抱負の紹介があった。開会挨拶に引き続き、大西敬二副団長(丸全昭和運輸(株)代表取締役専務)による乾杯発声があり、会食・懇談に入った。懇談終了後、㈱ニッソーの藤澤洋会長から閉会の挨拶があった。



【結団式で開会挨拶をする鈴木団長】



【大西副団長による乾杯発声】

■ 2日目／10月28日(火)・・・ブリーフィング、スナヤン視察、夕食交流会

視察団一行は旅程2日目の午前中、滞在ホテルのビジネス会議センターにおいて、現地経済関係3機関の担当者よりインドネシアに関する経済情勢、投資環境及び金融情勢の3つの視点からブリーフィングを受けた。

まず、「インドネシアの社会経済情勢について」と題し、日本貿易振興機構(ジェトロ)ジャカルタ事務所の藤江秀樹氏よりブリーフィングがあった。主にインドネシアの基本情報をはじめとし、現在の経済状況や問題点についてお話を頂いた。人口増加に加え、中間層数の伸び率も高いインドネシアでは、今後ますます消費量が拡大し、進出するにあたっての現地の経済状況が良好である一方で、問題点として最低賃金や土地代の上昇による負担や、インフラ不足等の問題点もあるとのことであった。



【ジェトロ藤江氏によるブリーフィング】



【BKPM 山崎氏によるブリーフィング】

トナー探し等の制度を今後確立させ、進めていく意向とのことだ。

次に、「インドネシアの投資環境について」と題し、インドネシア投資調整庁(BKPM)の山崎紀雄氏よりブリーフィングがあった。主に、日本企業の進出状況の説明を頂いた。日系進出企業は2014年時点で1,496社にのぼる。進出企業の半数以上が耐久消費財(自動車・二輪車)メーカーであるが、ここ数年の動きとして一般消費財(日用品・食品)メーカーやサービス業(飲食店、教育等)の進出も増えてきているとのことであった。中小企業の進出については、投資の基準額の設定や現地のパー



最後に、「インドネシアの金融情勢について」と題し、(株)横浜銀行から出向されているインドネシア国際銀行(BII)のトレーニーである古米俊晴氏よりブリーフィングがあった。現地の金融事情に始まり、海外展開を考える企業をサポートする体制のお話を頂いた。内容は、日系企業の資金調達をお手伝いするジャパンデスクの設置状況、また海外ビジネスの支援体制の拡充等である。

【BII 古米氏によるブリーフィング】

(ブリーフィング・ポイント)

- ・インドネシア(共和国)は、ASEAN 最大の国土〔191 万 km²(日本の約 5 倍) 13,000 以上の島で構成される島嶼国家〕、2 億 4 千 8 百万人の世界第 4 位の人口〔1 位中国、2 位インド、3 位アメリカ〕を擁し、平均年齢は 28 歳。生産拠点としてはもちろん、販売拠点としても魅力的な我が国企業の海外展開先・投資先として近年注目を集めている。
- ・2013 年経済成長率 5.8%、名目 GDP 8,683 億ドル(世界 16 位)、一人当たりの GDP 3,510ドルと 3,000ドルを超えており、相応の耐久消費財の購買力を有する国家となった。
- ・世界最大のムスリム国家であり、総人口の約 9 割がイスラム教を信仰している。
- ・2013 年の月額平均賃金(製造業のマネージャークラス)は 882ドルで、ベトナム(782ドル)よりは高いが、シンガポール(4,584ドル)やマレーシア(1,785ドル)、タイ(1,570ドル)、中国(1,156ドル)、インド(1,253ドル)よりも圧倒的に安い。
- ・政治情勢としては、10 月 20 日に 10 年間続いたユドヨノ政権から、庶民派のジョコ・ウィドド政権が発足し、住民との直接対話を通じた現場主義による政策実行力で、これまでには無い新しいタイプのリーダーとして注目されている。
- ・日系企業の進出動向は、2014 年版のジェトロ調査によると 1,496 社となっており、在留邦人は 14,720 人となっている。日系企業の 9 割はジャワ島に集積していて、ジャカルタから東へ向けて走るチカンペック高速道路沿いの工業団地内に立地している。
- ・進出企業の内訳を見ると、自動車、二輪車製造関連企業が圧倒的に多く、国内で走っている自動車の 95%は日本車で、トヨタの占める割合が高い(日本 93%)。
- ・近年、生活用品や食品などの一般消費財や、飲食、教育、IT、金融などのサービス産業の進出も見られる。
- ・日系企業の資金調達は、殆どが日系銀行(3 メガ+りそな)、或いは日系地方銀行と業務提携を結び行員を派遣している地場の銀行(BII も横浜銀行と提携)となっている。

昼食をはさみ、午後は専用車にてスナヤン地区へ赴き、鹿島建設(株)等が手掛けた「スナヤン・スクウェア・プロジェクト」の施設を視察した。



【スナヤン・スクウェア ショッピングモール正面玄関】

事業主体は、鹿島オーバーシーズアジア、スナヤン・トリカルヤ・スンナパ。同プロジェクトは 1989 年に着手され、首都ジャカルタの南部スナヤン地区の約 20ha.の敷地内にショッピングモール、オフィスビル、高級コンドミニアム、ホテルが建設されている複合開発事業である。主な特徴は、BOT(Build Operate Transfer)方式による民間の開発援助プロジェクトであり、都市再開発事業であることだ。



【スナヤンエリアのコンドミニアム】



【スナヤンエリアのコンドミニアムの最上階からの眺望】

政府から開発を委託され、この施設を建設することで地区の再開発に役立っている。主に複合商業施設としてSOGOをはじめとする百貨店や飲食店街、また映画館等があり、平日休日問わずにぎわっている。他にもオフィスビル“セントラル・スナヤンⅠ・Ⅱ・Ⅲ”があり日本企業も多数入居している。また、アパートメントとしても十分な設備を有しており、6割以上を日本企業関係者が利用している。今後の新たな開発事業としてホテルを現在建設中である。(詳細 16 頁参照)

スナヤン・スクウェア・プロジェクトの視察後、一行はホテルに戻り、午前中にブリーフィングを受けたインドネシア投資調整庁やインドネシア国際銀行の講師の他、翌日の視察先となる工業団地や日系進出企業の担当役職員等を招いての夕食交流会を開催した。ゲストスピーカーとして、PT. Fumakilla Indonesia の山下社長をお招きし、インドネシアにおける顧客の確保や現地インドネシア社員の教育など、設立当時の困難な状況の中からいかに事業を成功へ導くかというお話を頂いた。現地で活躍されている方々と直接お話しできる貴重な機会として、この夕食交流会は、活発な意見交換の場にもなった。最後に上野トランステック㈱の佐藤典彦執行役員より閉会の挨拶があった。



【夕食交流会にてスピーチを行う

PT. Fumakilla Indonesia の山下社長】



【ゲストを招いての夕食交流会】

■ 3日目／10月29日(水)・・・主要工業団地及び日系進出企業の視察

旅程3日目、視察団一行は、インドネシアの投資環境を実際に見聞すべく、グリーンランド・インターナショナル工業団地(GIIC)及び同団地進出企業並びにカラワン工業団地(KIIC)及び同団地進出企業を視察した。

一行はまず、専用車にてグリーンランド・インターナショナル工業団地を訪問、担当者から同工業団地の概要について説明を受け、その後団地内を視察した。



【GIICが立地するデルタマス・シティの看板】

同団地は、デルタマス・シティという街づくり事業の一環として整備されているものである。工業団地としては比較的新しいため未造成の土地が5割ほどあるが、2010年12月に初めて日系企業が進出して以来、進出企業は既に60社以上にのぼっている。今後も進出企業に対応できるように更なる造成を進めている。

デルタマス・シティは街として発展を目指し、ブカシ県庁を誘致し、今後大学等の教育機関、また商業施設やインフラ等も充実させる計画だ。工業団地で働く日本人のためのアパートメントも充実しており、将来は駐在員が家族で住める街づくりを目指すとのことであった。

(詳細17頁参照)



【豊富な緑地を配するGIIC】



【GIIC内に建設が進む新規工場】



【担当者よりGIICの説明を受ける】



【ISTWを視察する団員】

昼食後、一行は専用車にて次の視察地であるカラワン工業団地(KIIC)に赴き、先ず同団地のフマキラー(株)インドネシア法人である「PT. Fumakilla Indonesia」の担当者からインドネシアに進出した経緯や日常業務上の課題等に関する説明を受けた。売上の8割以上がインドネシア国内向けで、同工場はアジアの重要な生産拠点の一つになっている。
(詳細 21 頁参照)



【PT. Fumakilla Indonesia の作業風景】

また、同じ敷地内にある「PT. Oshimo Indonesia」も訪問し、実際に現地での作業状況等を見ることができた。同社は主に、フマキラーの蚊取用スプレーに使われるプラスチック部品等を製造しており、インドネシア国内向けは全体の四分の一ほどであるが徐々に増えている。(詳細 22 頁参照)



【PT. Oshimo Indonesia の作業風景】

二つの企業を視察した後、さらに香料及び関連製品製造・販売を行っている小川香料(株)の現地法人「P.T. Ogawa Indonesia」を訪問し、担当者からインドネシアにおける同社の取り組み等についての説明を受けた。

【右写真 P.T. Ogawa Indonesia 社屋】



同社は 1996 年にインドネシアに進出し、同工業団地内において研究開発と製造・販売を行っている。進出当初は、日本への輸出を目的としていたが、現在ではインドネシアにある企業（日系も含め）に対しても積極的に販売をしている。イスラム教が多数派のインドネシアにおいては、ハラール認証を取得したり、現地の顧客にあう香りを提供するなど、現地のニーズに応えることが重要とのことであった。

（詳細 22 頁参照）

一行は引き続き、カラワン工業団地の担当者より、同団地の概要等についての説明を受けた。同工業団地は、カラワン県というジャカルダ中心部から車で1時間程の場所ある。すでに 140 社ほどの企業が進出しており、8割以上は日系である。ほかの工業団地に比べ二輪・四輪関係企業の比率が高いが、異業種間の関係性も良好とのことであった。1995年には第一期エリア、1997年には第二期エリアが完成し、両エリアとも完売しており、現在第三期エリアを開発・販売中である。



【KIIC 管理棟】

また、2013年から事務所や工場をレンタルすることも可能とのことで、中小企業がさらに進出しやすいような環境づくりを進めている。さらに、テナント自治会が存在し、管理会社と一体となり、地域との共存共栄を目指し活動している。

（詳細 19 頁参照）



【建設中の工場】

カラワン工業団地を視察した後、一行は同団地内のレストランにて夕食をとり、専用車にてホテルへと向かった。

■ 4 日目／10 月 30 日(木)・・・ジャカルタ市街視察、解団式

一行は市街視察の一環として、まずインドネシアの首都ジャカルタの中央ジャカルタ地区にある公園「ムルデカ広場」の中心部にある国家独立記念塔を訪ね、現地ガイドから塔の由来等について説明を受けた。また、記念塔の近くにある国立中央博物館を訪ね、数々の展示物を鑑賞した。

解団式を兼ねた昼食では、まず鈴木団長から 4 日間を振り返った内容を含めた挨拶の後、団員各々の成果を共有し、ジャカルタ最後の日を惜しんだ。



【独立記念塔前での記念写真】



【国立中央博物館】

解団式の後、一行は、インドネシアの首都ジャカルタ特別州・南ジャカルタ市にあるブロック M 地区を訪ねた。同地区は、在ジャカルタ日本人向けのビジネス、ショッピングの中心地となっており、一行は同地区を自由視察した。

ブロック M 地区の自由視察を終えた一行は、専用車にて空港に向かい、ガルーダインドネシア航空 884 便にて、空路、成田への帰途に就いた。



【ブロック M・日本人駐在員も多く集うエリア】



【地元のマーケットもある充実したショッピングエリア】

■ 5 日目／10 月 31 日(金)・・・成田到着

午前 9 時、成田に到着し、解散となった。

7. 主な視察先の詳細

【スナヤン・スクウェア・プロジェクト】

鹿島建設株式会社のシンガポール現地法人である「カジマ・オーバーシーズ・アジア（Kajima Overseas Asia）」が出資する「スナヤン・トリカルヤ・スンパナ社（Senayan Trikarya Sempana）」が、首都ジャカルタの中心部であるスナヤンにおいて、都市型大規模複合施設を開発・運営している。

アジア競技大会の選手村跡地である約 20ha の敷地に、商業施設「プラザ・スナヤン」、オフィス 3 棟、マンション 4 棟が建ち並び、2015 年春開業予定のホテル棟が完成すれば、延べ面積約 60 万㎡の大型複合施設となる。

同事業は、インドネシア政府から 40 年間の事業権を取得した BOT 方式を採用しており、鹿島建設グループが総事業費約 500 億円をかけ、不動産開発から設計、施工、施設運営まで手掛ける。最終的には、40 年間の運営後、土地と建物をインドネシア政府に無償譲渡することとなる。



光のベールが美しいプラザスナヤン・モールファサード



「セントラルスナヤン2」（右）と1997年竣工の「セントラルスナヤン1」（左）



「スナヤン・スクウェア」全景

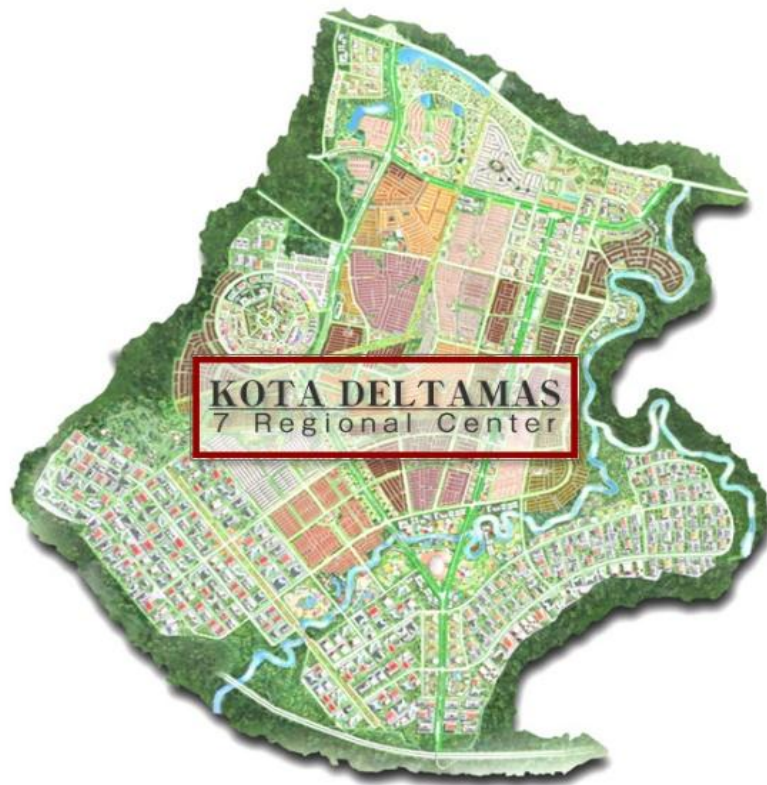
【グリーンランド インターナショナル工業団地(Greenland International Industrial Center/GIIC)】

視察地として訪問した GIIC の詳細情報は以下の通りである。

〈所在地〉	西ジャワ州 ブカシ県 Jl. Toll Jakarta - Cikampek Km. 37, Bekasi 17530
〈立地〉	ジャカルタから 37 km(約 40 分) タンジュンプリオク港へ 50 km スカルノ・ハッタ国際空港へ 60 km
〈事業主体〉	双日(株)、Sinarmas group
〈開発規模〉	開発面積 第一期 700ha (500ha は売却済み) 第二期 600ha 計 1300ha
〈インフラ設備〉	電力:国営電力会社(PLN)から優先的に供給を受けられる契約を締結 工業用水:供給:2,000 m ³ /日(最大) 排水:各企業にて一旦処理したのち、排水本管に排水 通信:国営通信公社(Telkom), ジャカルタ番号利用可能
〈付帯施設〉	日本食レストラン、コンビニエンスストア、住宅、商業店舗、オフィス。 商業エリア・ビジネスエリア・レクリエーションエリア・学研、教育エリア 行政エリア・住宅エリアを整備・企業誘致中
〈進出企業〉	スズキ(株)、フタバ産業(株)、タカタ(株)、東洋インキ(株)、シロキ工業(株)、(株)キャタラー等 66社



(株式会社国際協力銀行「インドネシアの投資視察環境」及び G.I.I.C HP より作成)



【デルタマスシティのマスタープラン】



【GIIIC 内にあるサービスアパートメント】

(株式会社国際協力銀行「インドネシアの投資視察環境」及び G.I.I.C HP より作成)

【カラワン工業団地(Karawang International Industrial City/KIIC)】

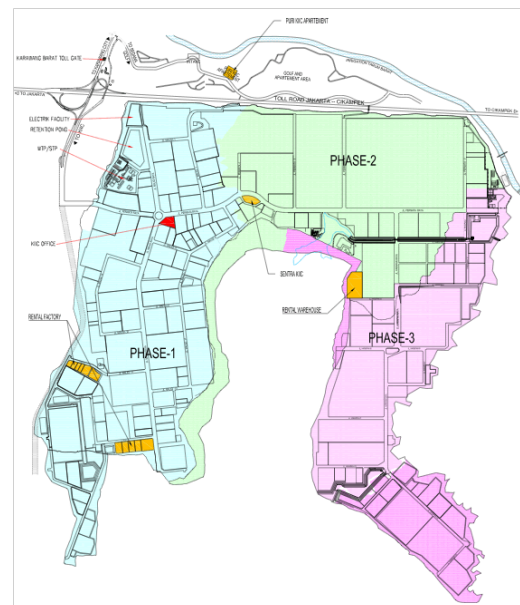
視察地として訪問した KIIC の詳細情報は以下の通りである。

〈所在地〉	西ジャワ州 カラワン県 Graha KIIC 2nd Fl. Jl. Permata Raya Lot C-1B, Kawasan Industri KIIC, Karawang 41361 West Java "	
〈立地〉	ジャカルタ・チカンペック高速道路インターチェンジ:1分 ジャカルタ中心部(スマンガ):56 km(60 分) タンジュンプリオク港:80 km(約 2 時間) スカルノ・ハッタ国際空港:80 km(約 2 時間) カワラン市中心:15 分	
〈事業主体〉	伊藤忠商事(株)50%、Sinarmas group50%	
〈開発規模〉	開発面積	工場用地
	第一期 465ha	323ha
	第二期 398ha	277ha
	第三期 331ha	214ha
	計 1,194ha	814ha
〈インフラ設備〉	電力:国営電力会社(PLN)からの供給 変電施設設置(180MW) 工業用水:タルム・バラット灌漑用水より原水を取水 供給能力:3 万トン/日 "渇水および緊急時対策として、 35 万トン(15 日分)の調整池を敷地内に確保" 廃水処理:処理能力 2.7 万トン/日の 2 次処理用排水プラント 1 次処理は各企業で行われ、共同排水管に排水 2 次処理プラントで処理後、排水規制に従いチタルム川放流 通信:国営通信公社(Telkom)より 1,000 回線据付済み ジャカルタ番号、カワラン番号の利用が可能 ガス:国営ガス会社(PGN)からの供給	
〈付帯施設〉	"Golf view サービスアパートメント、日本食レストラン、インドネシアレストラン、 銀行3行(内日系2行)、体育館、サッカー場、バレーボールコート、 コンビニ、ガソリンスタンド 他 "	
〈日本からの進出企業〉	トヨタ自動車(株)、ヤマハ(株)、松下電子工業(株)、ダイハツ工業(株)、 東洋紡(株)、三菱電機(株)、明治製菓(株)など 110 社(日系企業が全体の 8 割以上)。 二輪、四輪関連企業の比率が高い。	

(株式会社国際協力銀行「インドネシアの投資視察環境」及び伊藤忠商事 HP より作成)



【上空からの写真】



【マスタープラン】

(株式会社国際協力銀行「インドネシアの投資視察環境」及び伊藤忠商事 HP より作成)

【PT. Indonesia Steel Tube Works (ISTW)】

事業内容：鋼管(二輪・四輪車部品材料)の製造・販売

設立：1971 年 10 月

操業：1972 年 スマラン工場（生産能力：約2000トン/月）、
1990 年 ジャカルタ工場（生産能力：約 7000トン/月）、
2013 年チカラン工場(GIIC 内）（生産能力：約 1000トン/月）

出資：メタルワン 60%、丸一鋼管 20%、PT. Respati Djaya 20%

従業員：710名(邦人駐在6名) 2014 年 8 月末現在

〈本社〉メタルワン株式会社(メタルワン(株)HP より抜粋)

所在地：東京都港区

事業内容：鉄鋼総合商社

設立：2003年

資本金：1000億円

株主：三菱商事株式会社、双日株式会社

単体 従業員数：1174名(2014年4月1日)

連結売上高：約2兆5633億円(2014年3月期)

【PT. Fumakilla Indonesia】

事業内容：衛生薬品(殺虫剤、蚊取線香、芳香剤等)の製造・販売

設立：1990 年

操業：1990 年 タンゲラン工場、
2007 年 カラワン工場(殺虫剤、芳香剤)、
2010 年 バンジャルマシン工場

従業員：約 1800 人 2014 年 10 月末現在

インドネシア国内売上(2014 年)：約70億円

〈本社〉フマキラー株式会社(フマキラー(株)HP より抜粋)

所在地：東京都千代田区

事業内容：殺虫用品、家庭用品、園芸用品、業務用品等の製造販売、輸出入

設立：1950年

資本金：36億9868万円

従業員数：218名(2014年3月現在)

売上高：161億円

【PT. Oshimo Indonesia】

事業内容：プラスチック製品(四輪部品・殺虫剤容器等)の製造・販売

設立：2006年6月

操業：2007年2月 カラワン工場（PT. Fumakilla Indonesia と同敷地内）

売上見込(2014年)：輸出 約6億円

インドネシア国内 約2億円

〈本社〉大下産業株式会社（大下産業(株)HPより抜粋）

所在地：広島県広島市

事業内容：プラスチック成形加工の総合サプライヤー

設立：1947年

資本金：1億7500万円

従業員数：159名(2014年現在)

売上高：31億(2013年8月期)

関連会社：フマキラー株式会社

【P.T. Ogawa Indonesia】

事業内容：香料(食品・フレグランス)及び関連製品の販売・製造

設立：1996年

操業：1996年 カラワン工場（生産能力：約1000トン/年）

従業員：約67人(2014年現在)

〈本社〉小川香料株式会社（小川香料(株)HPより抜粋）

所在地：東京都中央区

事業内容：香料(食品・フレグランス)及び関連製品の販売・製造

設立：1933年

資本金：3億4100万円

従業員数：524名(2014年現在)

売上高：235億9500万円(2014年3月期)

【国家独立記念塔(通称:モナス塔)】

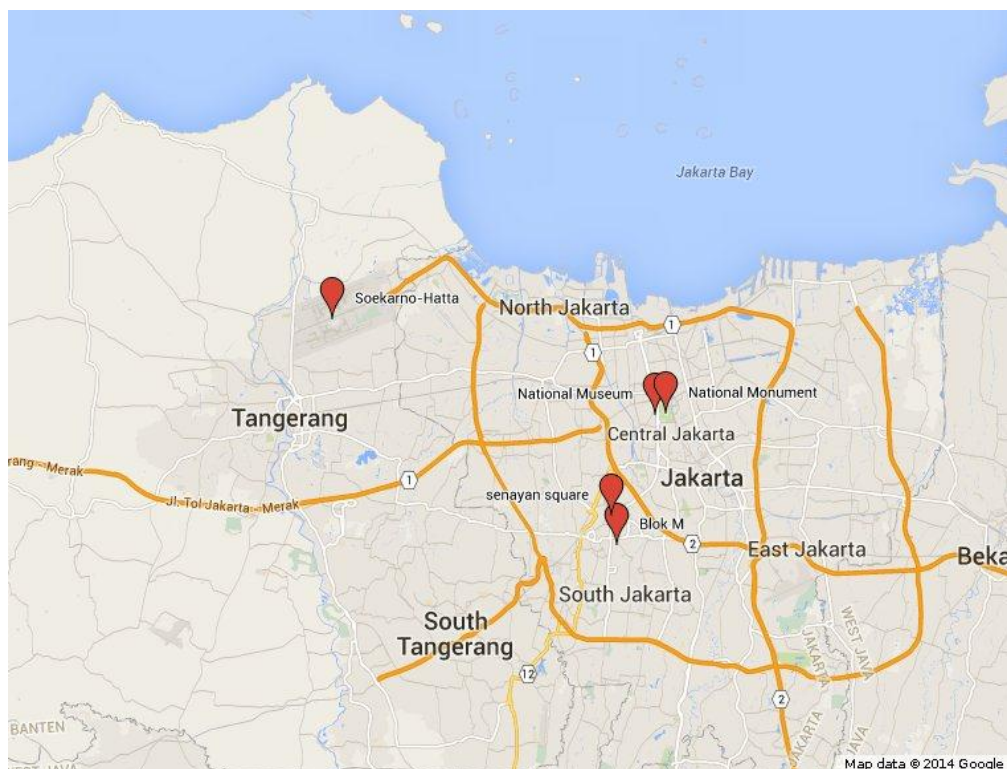
モナス(高さ 137m)はインドネシアの首都ジャカルタの中央ジャカルタ地区にある公園「ムルデカ広場」の中心部にある国家独立記念塔の名称である。モナス建立計画はスカルノ大統領の提案である。建築家のスダルソノとフレデリッヒ・シラバンがデザインを担当し、建築構造技術者はローセノ。スカルノ大統領自ら出席したモナスの定礎式は 1961 年 8 月 17 日に行われた。1975 年に完成し、同年 7 月 12 日から一般公開された。(Wikipedia より抜粋)

【国立中央博物館】

ジャカルタで第 2 位の規模を誇るギャラリーを有する同博物館は、幅広い時代の陶磁器コレクション、国内各地の芸能道具や家屋の模型、そして民族分布などインドネシアの文化や歴史を理解できる展示が多い。また中庭にはジャワ島のヒンドゥー教時代の石像が並べられている。他にも、シャイレンドラ王朝やマジャパヒト王朝の宝物やジャワ原人の骨の展示もある。(「地球の歩き方インドネシア」より抜粋)

【ブロック M エリア】

ブロック M(Blok M)は、インドネシアの首都ジャカルタ首都特別州・南ジャカルタ市にある地区の名前で、ビジネス、ショッピングの中心地である。通りは昼、夜とも混雑している。ここで売られている商品が安く、ナイトライフが充実しており、市の中心部とのアクセスが良いことが、人気のある理由の一つとなっている。(Wikipedia より抜粋)



9. 参考資料（インドネシアの基本データ）【出所：ジェトロHP】

■一般的事項

国・地域名	インドネシア共和国 Republic of Indonesia
面積	1,910,931 平方キロメートル(2013 年、日本の 5.1 倍)
人口	2 億 4,882 万人(2013 年、出所：中央統計局)
首都	ジャカルタ 人口 997 万人(2013 年、出所：中央統計局)
言語	インドネシア語
宗教	イスラム教、ヒンドゥー教、キリスト教ほか

■基礎的経済指標

項目	2013 年
GDP	
実質 GDP 成長率(%)	5.8
(備考)	基準年＝2000 年
名目 GDP 総額 - ドル(単位:100 万)	868,349
一人あたりの GDP(名目) - ドル	3,510

消費者物価指数	
消費者物価上昇率(%)	8.38
(備考)	2007 年=100
消費者物価指数	146.8
失業率(%)	6.3
産業生産指数・エネルギー	
製造業生産指数	114.7
(備考)	2010 年=100
製造業生産指数伸び率(前年比)(%)	5.9
国際収支	
経常収支(国際収支ベース) - ドル(単位:100 万)	-29,130
貿易収支(国際収支ベース) - ドル(単位:100 万)	5,834
外貨準備高 - ドル(単位:100 万)	96,364
(備考)	金を除く
対外債務残高 - ドル(単位:100 万)	264,060
為替レート(期中平均値、対ドルレート)(単位:ルピア)	10,461.2000
為替レート(期末値、対ドルレート)(単位:ルピア)	12,189.0000
通貨供給量伸び率(%)	12.7
輸出額 - ドル(単位:100 万)	182,552

対日輸出額 - ドル(単位:100 万)	27,086
輸入額 - ドル(単位:100 万)	186,629
対日輸入額 - ドル(単位:100 万)	19,285
直接投資受入額 - ドル(単位:100 万)	28,618
(備考)	実行ベース

■政治体制

政体	共和制(大統領責任内閣)
元首	ジョコ・ウィドド大統領(Joko Widodo) (就任時期:2014 年 10 月、任期は 2019 年 10 月、1961 年 6 月 21 日生まれ)
議会概要(定員数、 発足年、任期)	国会(DPR)(定数 560 名、任期 5 年)、国民協議会(MPR)(定数 692 名、国会議員 560 名と地方代表議員 132 名で構成)